



# れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校  
令和2年1月号

学校教育目標  
キャッチフレーズ  
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子  
「はきはき・にこにこ・きびきび」  
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数375人

## 令和2年 スタート

校長 清水 励

2020年（令和2年）の幕が開けました。保護者、地域の皆様方におかれましては、昨年同様、すべての子供たちのよりよき成長のために、引き続きの御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年行われたラグビーワールドカップで、日本チームが8強に入る大活躍をしたことは、まだ記憶に新しいのではないのでしょうか。日本チームがスローガンとして掲げていた「ONE TEAM」は、令和元年の新語・流行語大賞にもなりました。この「ONE TEAM」、言葉にするのは簡単で、異を唱える人は誰もいない言葉ではないかと思えます。しかし、日本代表選手の稲垣啓太選手の言葉に、「ONE TEAM」を実際に実現していくための難しさと、「ONE TEAM」となった時に発現される力の大きさを感じました。稲垣選手はフォワードのプロップというポジションで、スクラムの最前線として相手フォワードと直接組み合います。8人で組むスクラムは、ただ8人が力任せに押すのではなく、相手に押し負けないように、かつ自分たちのスクラムが崩されないように組まなければなりません。日本チームは、体格・体力的に不利ですが、強豪国チームのスクラムに負けないようトレーニングや練習に取り組んできました。そして、スクラムを組むときの力の入れ方や方向性など、「右足をあと1cmだけ前に出す」「腕の置き場所を1cm下にする」といった、スクラムの見た目の荒々しさからは信じられないほど、繊細で緻密な確認を重ねてきたそうです。その結果、崩れづらく8人の力のベクトルが見事に一方向に合わされたスクラム、まさに「ONE TEAM」が具現化されたスクラムができるようになりました。その成果として、予選第2戦の強豪国アイルランド戦において、アイルランドのスクラムから反則を勝ち取ったこと（自らスクラムを崩したという反則）は、今回のワールドカップにおける、自分たちの強さへの自信が確信へとかわる、日本チームの大きな大きなターニングポイントになったそうです。

学校では、4月より小学校における新学習指導要領が全面実施となります。学習指導要領改訂のキーワードとして「①主体的・対話的で深い学び」「②社会に開かれた教育課程」「③カリキュラム・マネジメント」等があげられますが、これらは『子供たちに未来社会を切り拓くための資質と能力を育成すること』を目指しているものです。学校教育の要は「日々の授業」にあります。いかに素晴らしい学習指導要領があったとしても、実際に日々子供たちが取り組んでいる「授業」において、教職員一人一人が新学習指導要領の趣旨を理解し、実践していこうとしなければ、全く意味のないものとなってしまいます。私たちには、「子供たちに付けるべき力を明確にし、何を、どのように学ばせるか」ということを、これまで以上に深く考え、授業で実現するために不断の改善を行うことが求められています。

以前より「チーム学校」という言葉もありますが、子供たちのよりよき成長に寄与できるよう、教職員個々の指導力向上、教職員間のよりよい人間関係の維持と向上、広い視野でのカリキュラムマネジメント等を柱にして、中央小学校も「ONE TEAM」を目指し、日々の教育活動に取り組んでまいりたいと思います。